



伝え合いと認め合いの初等部の授業

部長 松本安博

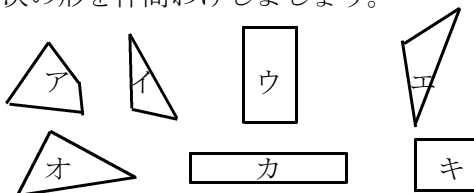
朝夕の涼しさに、秋の気配が感じられるようになりました。

秋の訪れは、入学試験シーズンの訪れでもあります。そして、今年も初等部に関心を寄せていただいた皆様とお話をする機会をもたせていただいています。その中で、今年は初等部の授業をご覧になった方より、「初等部の授業では、子どもたちが活発に意見交換したり、調べた事柄を機器を使って上手に発表したり、高学年になるほど素晴らしい勉強をしていますね。」と、褒めていただくことがよくあります。また、「各学年、各クラスの机の形態がいろいろ工夫されていますね。」「夏休みの自由研究が素晴らしいですね。」「字がとてもきれいですね。」などと、初等部の学びについてのうれしいお話をたくさん届けてくださっています。私は、月曜朝会などでこれらのことを初等部生に伝えたいと思います。きっと喜んでくれるとともに、自信をもってくれることと思います。

実は、いま初等部では伝え合いと認め合いによる課題（問題）解決的な学習をめざして授業研究に取り組んでいます。特に、自他の考えを伝え合い、認め合う学習過程と授業の終末のまとめと振り返りの学習過程を大切にしています。ですから、初等部の授業では、教師中心の解説的な授業も行いますが、学習者主体の授業を常に大事にしています。また、「チャイムが鳴ったので、続きは今度にしましょう。」という終わり方は、しないようにしています。

明日、2年生で個人研究の取組があります。その自主的な実践を踏まえ、放課後には事後の研究会がもたれ、意見交換を行います。その授業、算数科「三角形と四角形」の仲間分けを例に初等部がめざす伝え合いと認め合いの授業を紹介したいと思います。

なかま
次の形を仲間わけしましょう。



【課題】 形のどんなところを見て、仲間分けをするとよいでしょう。

【伝え合いと認め合い】

- まずは自分で仲間分けをします。
- 隣の人と自分たちの仲間分けを話し合っ
て課題について、一定のまとめをします。
- 自分たちの仲間分けを発表し合い、課題に
ついての大切な考えを見出します。

【理解の深化】

(定義が確認され、2つに分けられた後)

クとケとコはどちらの仲間になりますか。



- 全体で意見交換をします。

【まとめと振り返り】

- きちんと3本の直線で囲まれた形の仲間の
ことを三角形といいます。
- きちんと4本の直線で囲まれた形の仲間の
ことを四角形といいます。
- 辺（直線）の数やちょう点（かど）の数を
調べることが大切です。
- 真っ直ぐの線か曲がった線かを調べるこ
とが大切です。
- ちょう点（かど）がきちんとついているか
どうかを調べるのが大切です。

【新たな課題発見】

- 三角形や四角形の仲間分けはできないのか
な。
- (後の学習) 箱の形は、どんな仲間に分けら
れるのかな。

このような伝え合いと認め合いの授業成果は、毎年小学校6年生と中学校3年生を対象に行われます「全国学力学習状況調査」の結果からも窺えます。全国のおよそ半分の私学も参加する学力検査ですが、国語科と算数科ともに、私学のほぼ水準の結果を毎年出しています。また、加えて理科が行われました時には、水準をはるかに超える結果が得られました。特に理科においては、3年生からの専科制や教材教具が整った学習環境の下での観察と実験重視の学習指導法がその要因として考えられます。

チーム初等部、今後ともに授業研究を通して日々授業改善に努め、確かな学力を初等部生一人ひとりに実現していきたいと思ひます。